

11/11 常盤塾 議事録

日時：2017/11/11 10:00-13:00

場所：新国際ビル MBF ハウス

参加者：常盤先生、古川さん、古城さん、出井さん、白井さん、大下さん、
松崎さん、丸山さん、今田さん、安梅さん

一分間スピーチ

古城さん「東京モーターショーに行ってきたが、もう終わった感じがある。メーカーで頑張ってたのはマツダ。あとベンチャーも頑張っていた。メーカーのピラミッドが崩れつつある。」

出井さん「休暇でハワイに行ってきた。ハワイ島には11の気候帯が存在しており、自然が豊か。」

白井さん「広州に行ってきた。ものづくりが発達しているところ。中国は食やITのレベルも上がっており、中国の人々のやる気に負けてはいけないと思った。」

大下さん「マックスウェーバーについては昔研究したことがあり、大変懐かしかった。」

丸山さん「フレネミー(友達と敵)、コペティションの話。見方も敵も協力していかなければならないという東洋思想の影響を感じる。」

今田さん「繁殖犬だった犬を保護した。元からいる犬と全く性格が違う。保護犬はやはり遠慮がちで、最初から可愛がられた犬は甘えがちである。これは人間にも当てはまる。」

安梅さん「今日の朝ドイツから帰ってきた。移民の支援の研究をしてきた。楢円モデルがすごく生きた。」

古川さん「昨日の磯貝先生の話。大学は住み心地が悪くなっている。今は研究費を取るために、評価尺度が必要になっている。つまり、成果主義になっている。」

常盤先生のお話

研究費は税金と一緒に。何にどう使われるかわからないが、出さねばならない。成果主義から抜け出さなければならない。

わからないことをやるから意味があるのであって、過去事例があるかどうか、期待値はどうか、ということを感じてはばかりではいけない。

企業って何なのか？優劣は何で決まるのか？ということ最近考えている。

会社の優劣は、企業固有の文化によって定まる。これが競争力の源泉。

しかし最近文化が劣化している。

現在、どんどん物事は抽象化されてゆき、普遍化されている。そして世界的なものへと膨張している。19世紀のヨーロッパで合理的な科学や技術、民主主義が生まれ、金融のメカニズムも生まれた。それらはヨーロッパの没落後アメリカに移植され、普遍化され、世界へと拡張された。

=アメリカの世界化=グローバル化、情報技術化

civilization=文明、culture=文化 と訳すことができる。

では文化とは？

自分の身の回りの環境を受けて、自分の生を形成している。

その中には、ゆるやかな宗教心や愛郷心など、心の問題も生じる。

すなわち、文化の中で人は育つ。

しかし、情報技術などがその中に入り込み、人をぼかしているのではないか。

(人の心を定量的に測ろうとしたり、お金が全ての尺度になったり…)

文化とは、内部から育ってきた生の形態である。それに対し文明は外部から押

し寄せてきたものである。現状、文明が文化に入り込み、侵している。

文明の普遍化が文化の衰退を招いている。

→なんでもお金で測るところに根本の問題があるのではないか。

文化とは、常に新しく変化してゆく財産である。

この話を企業に落とし込むと、グローバリゼーションと資本主義という考え方が今基準になっている。この波に各国の文化が飲み込まれ、壊されている。

そのような状況の中、一人一人が企業に対する感謝の念を持ち、自分の本当の幸せについて考える必要がある。人を育てる基本的なものがないのに、情報だけ与えてお金で物事を測っても意味がない。人間の「生」がなければならぬ。

対極があるからこそ自分も成立する。個人を大切にする＝全体を大切にする

安梅さん「企業にもケアが必要」

丸山さん「科学は違いに注目して、神話は同じものに注目する」

常盤先生「科学は自然と対峙し、神話は自然を友とする」

今井さんの発表を受けての議論

常盤先生「宗教は新しい問題を提起する。その際は楯円思想が重要になる。仏教では五蘊という思想がある。それが現代の脳科学の研究にも結びついている。今、宗教と脳科学が結びついている。なぜ物質的なものから心は生まれるのか？という問いは二つの組み合わせを考えることで答えが出るかもしれない。」